

評価領域	研究
------	----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の実態及び教育的ニーズと、指導目標・内容とのつながりを明らかにした授業づくりと「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究主題「『考える』を発揮する授業づくり」に基づく授業改善 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究の推進により、「授業づくりの視点」を基にした授業実践、評価、改善が日常的に行われるようになった他、教育活動への地域等の人的、物的資源活用により学習効果の向上を図ることができた。一方、「子どもたちの学びの実感」「評価や一人一人のねらいの妥当性」などの課題が残った。 	
具体的な目標	「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくり、授業実践を通じた教育課程の改善	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業づくりの視点」に基づいた授業改善（研究対象：生活単元学習）と事後の改善授業の実施 ○教員一人一回以上の授業提示（研究対象：国語／算数・数学）と授業改善 ○授業実践を通じた教育課程の編成、実施、評価、改善 	
具体的な取組状況	<p>①全校授業研究会（各学部・寄宿舎）、学部授業研究会：各学習グループによる授業提示と事後の改善授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育計画(実態表、個別の支援計画、個別の指導計画)に基づいた指導目標・内容の設定、単元構成検討会、学習指導案検討会の実施と1単位時間の授業のシナリオづくり <p>②「日々の授業改善協議」：「授業づくりの視点」に基づき教員一人一回以上の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育計画に基づいた指導目標・内容の設定、各教科等を合わせた指導と教科別の指導の関連を明確にした授業づくり、1単位時間の授業のシナリオづくり(発問の工夫、精選)、協議の実施(授業提示者と教頭、教育専門監、研究主任他) ・授業づくり研修の実施(示範授業提示(年3回)と学習会)と教員の学びの共有 <p>③教育課程検討委員会、教科、自立活動、進路学習の各部会、教科検討会：研究部、教務部、進路指導部の連携と授業実践の成果と課題の教育課程への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、年間指導計画の目標、指導内容の検討と改善、授業実践を通じたPDCAサイクルでの教育課程への反映、生活単元学習への進路学習内容表(キャリア教育の視点)の反映、各教科等を合わせた指導と教科別の指導関連性を重視した授業改善 	D
達成状況	<p>①教育計画に基づき担任間で検討を重ねて指導目標・内容を設定した他、単元構成検討会、学習指導案検討会は学部主事、教育専門監、研究主任を交えて計画的に実施した。1単位時間の授業づくりにおいては、シナリオを作成して発問や手立ての精選に努めた。授業研究会後は、出された案を生かして改善授業を行った。</p> <p>②「授業の基本」をチェック項目にし、授業前に授業者が自己評価した。「反応をよく見て、働き掛けが適切かを確認している」「児童生徒が注目できるように教材を提示している」が高評価であった。評価の低かった項目は次年度の研究につなげたい。教職員で学びを共有するため、示範授業は視点に沿って映像化し、学習会を実施した。</p> <p>③各部会を定期的にも実施して他学部の成果の共有と課題の協議を行った。</p>	

自己評価	(評価)	(根拠)
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元構成検討会、学習指導案検討会の実施には時間を要するが、複数の目での検証が適切な指導目標や内容の設定、評価の妥当性に不可欠であることが実感された。全学部において積極的に行われるようになった。 ・ 授業のシナリオは、授業者が発問や手立てを練り上げるためのツールになっただけでなく、参観の視点を明確にする点でも効果があった。授業者の働き掛けの意図等が予め提示されていることで、参観者が具体的な改善案を提案することにつながった。 ・ 「日々の授業改善協議」で授業づくりの基本をチェック項目にして活用したことで、課題が明確になった。「児童生徒が達成感をもつ振り返り」や「考えることを促す発問」のあり方等の改善に対する教員の意識が高まった。 ・ 教育課程検討委員会、教科、自立活動、進路学習の各部会の実施が定着し、職員から協議内容の案が積極的に出されるようになった。

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ よい授業を作り上げるための教員の意識の高さと工夫・改善への努力が実際に成果を生み出している。 ・ 授業の中で予想される児童生徒の動きが、指導計画の中で対応でき、なおかつ評価している。 ・ 教員の努力が忙しさの悪循環につながらないように、文書等の簡略化により仕事量を軽減してほしい。 ・ 単元構成検討会、学習指導案検討会の実施や授業のシナリオ作り等の実践により教員間で成果の共有が図られ「児童生徒が達成感をもつ振り返り」や「考えることを促す発問」のあり方等の改善の意識が高まっている。また、教科・分掌横断的な授業改善の視点が全方位的な授業改善に繋がっている。 ・ 授業において考えることを促す発問の具体を知りたかった。教師が日々検討会を重ね、授業改善に努められていることに敬意を表します。

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣地域の関係各所との親密な連携を継続するとともに、参加する地域行事を精選し、より指導の成果が出やすいようにする。 ・ 教員間で授業のアイデアを交換し合えるような全校研究会を継続し、ベテラン、中堅、新人のつながりを深める話し合いの機会をつくる。 ・ 授業シナリオの活用を基に、発問、板書等を精査し、考える力の育成に向けた指導・支援を中心とした校内研究を進める。 ・ 単元計画を含めた、指導計画を見直し、教科別指導と教科等を合わせた指導を横断的に捉え実践する。また、各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせた学びや教科等に固有の知識、スキル習得の実現に向けた授業改善を図る。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価領域	地域支援
------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校・中学校、高等学校の特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援の充実 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校・中学校・高等学校からの支援の要請を受け、対応している。成果は見られているが、学校や担任による格差は否めない。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能についての理解推進を図りつつ、地域の園・学校等の特別支援に関わる実態や情報を収集し、ニーズに合った支援をする。 ・地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校・中学校、高等学校や関係機関等とのネットワークを有効に機能させる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能についての事業説明（年度初めの挨拶回り） ・地域の園・学校等からの相談内容の把握 ・地域のニーズに基づく相談対応、情報発信、参考図書の貸出 ・本校児童生徒と地域の園・学校等との交流及び共同学習、居住地校交流の推進 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> ①センター的機能紹介リーフレットを持参し、大仙市・美郷町の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校・中学校、高等学校、関係機関を訪問 ②地域からの依頼による巡回相談や知能検査等の実施 ③地域の連絡協議会やケース検討会及び就学や教育に関する相談会等への参加・協力 ④セミナー（小・中学校特別支援学級授業研究会）等への参加・協力 ⑤特別支援学級担任等実践研修の実施、他校の校内研修会への協力 ⑥希望する園・学校等の児童生徒に対する「障害理解（出前）授業」の実施 ⑦「地域支援部報」の発行及びホームページへの掲載 ⑧「地域支援文庫」の管理・貸出 ⑨交流及び共同学習、居住地校交流等の実施とそれに向けた連絡調整 	D
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> ①挨拶回り：72か所（大仙市・美郷町の幼保認小中高の全園校他） ②1月末現在 <ul style="list-style-type: none"> ・相談 8園 7小学校 2中学校 計27回 ・知能検査（大仙市専門検査員の業務を含む）1園 10校23名 <small>※上記2点については、教育専門監や特別支援教育アドバイザーも別途多数実施。</small> ③・大仙SENネット会議への参加（月1回） <ul style="list-style-type: none"> ・美郷SENネット連絡協議会への参加（月1回） <small>（※SEN…special education needs）</small> <ul style="list-style-type: none"> ・就学や教育に関する相談会（協力） <ul style="list-style-type: none"> 大仙市 7/24（5名協力） 9/26（2名協力） 美郷町 7/25（3名協力） 9/19（1名協力） 	

- ・大仙市教育支援専門検査員（委嘱）
～専門検査員会議（5回参加）
～就学前の園児の園訪問（2園：様子観察他）
- ・大仙市自立支援協議会全体会（1回参加）
- ・美郷町総合支援協議会実務者会議（1回参加）
- ④・小学校14校・中学校1校・計15校の特別支援学級授業研究会等に地域支援部員を中心に教職員がのべ22回参加
- ⑤・特別支援学級担任等実践研修（2校3回実施）
 - ・校内研修会等講師としての協力（2校3回）
 - ・個別研修への協力（3校園3回）
- ・大仙市教職員研究集会への講話（1回）
（教育専門監や特別支援教育アドバイザーも別途多数実施）
- ⑥・障害理解（出前）授業（5小学級7学級、1中学校3学級）
 - ・教育専門監による障害理解（出前）授業（2高等学校）
- ⑦・地域支援部報「hand in hand」を年5回発行予定
- ⑧・地域支援文庫～蔵書計175冊、年度内に実践で役立つ図書を追加購入の予定。貸出依頼への対応の他、巡回相談やセミナー等への参加時に担当者が持参し、具体的な情報や支援の方法等を提示する時等に活用
- ⑨・地域の複数の保育園、小・中学校、高等学校と共に活動することができた。（大川西根保、内小友保、大曲南保、大川西根小、内小友小、大曲西中、大曲農業高、六郷高、修英高）
- ・県障害児等療育支援事業「愛・あいルーム」と小学部低学年の合同遊び（5/29、8/28）～大仙市児童家庭課、大仙市や美郷町教育委員会の特別支援担当職員、園児の所属する保育園の担当者等にも参観の案内をした。関係者が顔を合わせる機会としても有効だった。
- ・居住地校交流～小学部18名（新規7名）中学部2名（新規）が希望し、相手校10校で、のべ26回実施。20名中13名は複数回の交流を実施できた。

自己評価	(評価) A	(根拠) ・地域のSENネット連絡協議会等へ参加し、大仙市及び美郷町の園・学校・教育委員会ほか関係機関との連携を深めることができた。 ・障害理解（出前）授業を実施できた。居住地校交流と連動させることで実施の機会が増し、効果も感じられた。 ・特別支援学級担任等実践研修や、より実践的な校内研修会のニーズがあり実施した。 教材、アセスメント、具体的指導方法等について研修し実践につながっている様子である。	C
------	---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---

↑
評価基準
↓

- A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
- B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
- C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

	(評価)	(意見) ・就学前幼児に対する対応方法などの有効な助言など行われることは大変評価できる。	
--	------	-------------------------------------------------	--

<p>学校関係者評価と意見</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能の充実を図りつつ、巡回指導、知能検査、ケース会議、障害理解授業等の各種活動が効果的に行われ、関係機関等とのネットワークが十分機能した。 ・学校、保育園にとって指導の糸口を見つけてくれる大切な役割を果たしている。支援の提案後にしっかりと見届けをしている。今後も敷居の高くない関わりを願う。 ・地域交流により喜びをもって活動できることは素晴らしいことである。今後も意欲やあふれる充実感が感じられるような取組が必要である。 ・特別支援教育を必要とする幼児児童生徒の発見は広範囲に渡ります。様々なネットワークを活用して保護者の理解を求める必要があります。 	<p>C</p>
-------------------	----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------



<p>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の園校等への支援後の見届けとして、支援依頼校の効果的な実践につながるよう、提案した内容に関連した個別研修の機会を積極的に提供する。 ・居住地校交流と連動した障害理解授業を継続すると共に、交流事後に行う事後授業にも取り組み、交流してみても生じた疑問や感想等に対応する。 ・年度初めの挨拶の際に、障害理解（出前）授業についてのニーズを聞き取り、実施に向けて相手校と共に計画をする。 ・居住地校交流と連動させた障害理解授業の一層の推進を図ると共に、交流学年以外への障害理解授業も増やせるよう、働きかける。 	<p>A</p>
------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------